敦賀の沖積層より出土した貝殻

福　岡　　修*

昭和52年に気比神宮の西側，国道８号線沿いにあった旧図書館跡へ錬成センター（武道館）を建設することになり，ボーリングによる地質調査をやったところ，地下に木屑や腐植物，貝殻が含まれていることを知った。その後，建設工事に着手，杭工事をアースオーガー工法（杭の打込む位置に杭孔を先にドリルで削孔したのち杭を孔に入れ打込む工法）により，地下より掘り揚って来た土の中から破損していない貝殻を相当に拾い集めて泥を洗い整理してみた。今迄貝殻の研究をやったこともなく，その貝が何種類あるだろうかと意識して集めたことでもなかった私である。

中学と高校で生物クラブをやっていた程度の知識で，一応形の似たものばかり集めてみて保育社の「原色日本貝類図鑑」と「続日本貝類図鑑」を主に調べ，更に不明なものは敦賀工業高等学校の松本一夫先生に教えて戴いたところ，これらの貝は現在敦賀地方湾内で見られるものだと聞き，それならば自分も湾内の貝を収集してみようと思い立ち，以後四季を通じて懸命になっている次第である。

今迄あった工事現場からもボーリングで貝殻が含まれていたこともあり，この様に分類整理をすることにもっと早く手をつけていたならばと残念に思う近頃である。

この錬成センターの地層は，グランドラインよりマイナス6.5 *m*迄シルト・レキ混り砂であり，6.5 *m*から9.5 *m*迄は上から順に腐植物混入，貝殻，砂層であり，9.5 *m*より14.45 *m*迄がシルトで細砂を挾み，14.5 *m*より21.45 *m*迄が上から順に砂レキ，シルト，砂レキ，粘土質シルト，砂と堆積し，以下30 *m*迄は砂レキ層である。

出土した貝殻は次の通りである。

ウチムラサキ，スダレガイ，ムシロガイ，イタボガキ，コタマガイ，カニモリガイ，カゴメガイ，シドロガイ，エゾタマガイ，サザエ，オニアサリ，タマネコガイ，ツメタガイ，コロモガイ，イタヤガイ，ナガニシ，ツノガイ，カガミガイ，トリガイ，モモエボラ，オオノガイ，ウニ類，フジツボ類，以上23種で海産のものばかりである。

昭和54年２月に三島２丁目で建てる中央公民館の地質調査を行ったところ，この地下にも貝殻が点在することを知って本工事の開始を待った。敷地は笙ノ川に掛かる国道27号線三島橋のたもと水田であったところ。この建物の杭工事も敷地周辺に人家が建込んでいることからアースオーガー工法となり，毎朝早く掘揚ってきた土の中から貝殻と種子を選び収集した。地層はグランドラインよりマイナス7.6 *m*迄シルト，砂レキ，レキ混り砂，砂レキの順に。7.6 *m*から16 *m*まで上から順にシルト，腐植土，木片，砂質シルト，貝殻，粘土質シルト，貝殻，シルトと堆積し，

＊　敦賀市建設部建築課

16 m より30.2 m 迄は砂レキである。貝殻の含まれる層はマイナス9.5 m 付近と，マイナス13.5 m 付近。出土した貝殻は次の通りである。

ナガニシ，ツメタガイ，トリガイ，ムシロガイ，オオノガイ，シドロガイ，ヒメヨウラク，ウニ類，タマゴガイ，シヤジク類，ツマベニカイコガイダマシ，カニモリガイ，アサリ，イタボガキ，マメウラシマ，ツノガイ，イタヤガイ，カガミガイ，ムギガイ，クチキレガイ　，オダマキ類，ヒメネジガイ，その他小片で確定できないものにオオイシカゲガイと思われるものを含めて海産23種である。

昭和54年3月に下水道事業で天筒浄化センター建設現場へ出かけた際に，今迄掘り上げた土の集積場に白い物が点在するのに気付き，以後この現場での貝殻と植物の種子，木の根等収集整理をやっている。これらの貝殻は一応70種ばかりあるかと思うが，先生方にお教えを戴き整理し，他の資料も含めて冲積層時代の敦賀の海岸線を想定して発表させて戴きたいと思っている。

〔付　記〕

福岡様から教えられ，敦賀市の下水処理場工事現場から多数の海の貝の化石（多分冲積層中の化石）や木本の実等，百余種千点に余る資料を採集することができた。本年4月いっぱいに実施した新資料特別展では，一コーナーにこれ等の資料を整理し展示して，6千数百余名の入館者の注目するところとなった。記して福岡様にお礼申し上げる。

館長　小　林　貞　七